

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XX

平成18年3月

熊取町教育委員会

はしがき

古代から熊取野とよばれた本町域は現在まで変わることなく「熊取」として独立した地域を保持し、恵まれた自然と貴重な文化遺産を今日に伝える町であります。

町内には重要文化財中家住宅をはじめ有数の文化財が知られていますが、他に埋蔵文化財包蔵地として45ヶ所を数える遺跡があるなど、町内全域に遺構や遺物が埋蔵されています。

熊取町では昭和60年度から国庫補助金等を受けて発掘調査を実施するようになりました。これまでに貴重な資料を得ることができました。

本書は平成17年度国庫補助事業として実施した発掘調査の実績報告書として作成したもので、今後多方面においてご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが、本年度現地での発掘調査にあたって御協力をいただきました土地所有者ならびに関係者各位に対しましてここで厚くお礼申し上げます。

平成18年3月

熊取町教育委員会
教育長 甲田義輝

例　　言

1. 本書は、平成17年度に国庫補助金を受けて、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係が実施した熊取町遺跡群発掘調査における概要報告書である。
2. 調査は、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係考古学技師前川 淳を担当者として、平成17年4月1日に着手し、平成18年3月31日をもって終了した。
3. 本書は、報告書の作成の都合上、平成17年4月1日から平成17年12月29日までの発掘調査成果及び、平成16年度事業で昨年「熊取町埋蔵文化財調査報告第45集」で報告できなかった平成17年1月5日から同年3月31日までの発掘調査成果2件を掲載する。
4. 本書における図面の標高は、T.P.（東京湾平均潮位）を用いた。また方位は、地図以外については磁北を示すこととした。
5. 本書における図面の土色は、『新版標準土色帖』第10版（小山正忠・竹原秀雄編、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所色票監修1990年度版）を用いて目視により比定した。
6. 本書の作成及び発掘現場での作業にあたって、下記の調査員・調査補助員・作業員の参加を得た。

関井澄子、永橋祥行、前田公子、森田享子、山本恵子
7. 本書の執筆は熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係考古学技師前川淳が行った。

目 次

第1章 はじめに	1
第2章 地理的環境と周知の遺跡	
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第3節 周知の遺跡	3
第3章 調査成果の概要	
第1節 大久保A遺跡04-1区の調査	5
第2節 大谷池遺跡04-1区の調査	7
第3節 野田遺跡04-3区の調査	9
第4節 野田遺跡05-5区の調査	11
第5節 大久保D遺跡05-1区の調査	12
第4章 まとめ	14

第1章 はじめに

平成17年度における、文化財保護法に基づく土木工事等による埋蔵文化財の発掘の届出・通知件数は21件（平成17年12月29日現在）であり、昨年の同時期は30件であった。

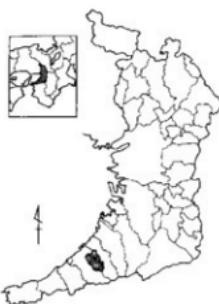
本書では平成17年度12月29日までに国庫補助事業として実施した野田遺跡をはじめとする町内遺跡の調査2件、平成16年度事業で実施した大久保A遺跡等を合せた5件の発掘調査の成果について概要を報告する。

平成17年度国庫補助事業発掘調査一覧表

遺跡名	所在地	申請者名	申請面積	調査年月日
大久保A遺跡04-1区	大久保1721-1	甲田 功	1,332.34m ²	平成17年1月17日
野田遺跡04-3区	紺屋1丁目265-1、265-2	南川 弘一	364.97m ²	平成17年2月17日
大谷池遺跡04-1区	桜が丘2丁目24-4他2筆	甲田 豊	303.66m ²	平成17年3月22日
野田遺跡05-5区	野田3丁目233-3	福井 秀樹	162.71m ²	平成17年9月6日
大久保D遺跡05-1区	大久保北3丁目318-5	北川 清吉	402.45m ²	平成17年9月22日

第2章 地理的環境と周知の遺跡

第1節 地理的環境



熊取町は大阪府泉南地域の中央に位置し、貝塚市・泉佐野市の両市に囲まれた町である。町域は東西約4.8km、南北約7.8kmと南北に長い木の葉状を呈している。町域の総面積は約17.19km²を有する。地形による面積比を見ると、山地41%、丘陵24%、段丘23%、低地12%に区分され、山地・丘陵部が町域総面積の約3分の2を占めている。地域別に見ると、町南部においては、泉南地域の基本山地の和泉山地から派生する和泉丘陵とその縁辺部に発達する段丘部が多くを占めている。また北部では狭小ながらも河川の対岸に洪積地が形成されている。町域に水源を持つ河川は雨山川・和田川・大井出川・見出川の4水系が存在している。いずれも町南部の山間部を水源としており南部から北部へ向かって流下し、泉佐野市を経て大阪湾に注ぎ込んでいる。本町が瀬戸内式気候区の東端に位置しているために年間降雨量が少量であることから、古くから町域一帯に多くの灌漑用の溜め池を目にすることができる。

第2節 歴史的環境

遺跡数は平成17年12月現在で45ヶ所を数えている。

縄文時代以前の遺構は発見されていないが、野田遺跡の所在する熊取町野田の町立中央小学校で縄文時代早期の有舌尖頭器やそれに後続する時期の石器が検出されている。

明確に弥生時代とわかる遺跡は発見されていない。JR熊取駅のある大久保における駅前整備事業に伴う平成元年の発掘調査では畿内第V様式を示す土器が大量に検出され大久保E遺跡としているが、その土器は古墳時代初頭の所産と考えられている。

古墳時代の遺跡として、町中央部の山の手台住宅に五門古墳と五門北古墳が記されているが、既に開発で消滅してしまっている。宅地となってからの付近の調査では埋蔵文化財は一切確認できていない。

飛鳥時代については、平成10年度の久保城跡98-1区の調査で複数の溝が検出され、その中から飛鳥第V様式といわれる土師器や須恵器を検出している。

奈良時代についてはこれまで東円寺跡（現：野田遺跡）87-1区の調査で建物4棟と土壙、須恵器、土師器が検出されたのみにとどまっていたが、10年度に久保で須恵器杯や製塩土器等の土師器を含む3本の溝群、平成11年7月熊取町七山（七山東遺跡）で西暦750年以降の奈良時代を示す多くの須恵器が相次いで検出された。また小垣内においては、平成13年度の試掘調査で中世の土器とともに奈良期の須恵器破片が出土している。これらのことから熊取町全域は奈良時代には本格的に開発されたものと考えられる。

平安時代については、野田の熊取町役場付近に想定されている東円寺の創建が、発掘調査で発見された軒瓦の比較考察から平安時代末とされている。また平成8年度には大久保から紺屋にかけての私立病院の発掘調査で黒色土器や須恵器、土師器が自然流路内から検出されている。

鎌倉時代以降中世に関しては、熊取町内の遺跡のほとんどが同時代を中心とした様相を示している。主だったところでは野田の野田遺跡、久保の久保城跡、大浦の大浦遺跡、紺屋の紺屋遺跡、七山の七山東遺跡、大久保の大久保E遺跡、小谷の久保A遺跡などで瓦器を豊富に含む包含層が存在しており、建物・溝といった遺構も検出されている。平成13年度には小垣内で幅10m程の溝跡が見つかり、新規に集落跡として小垣内西遺跡としたり、平成15年度にはその北東200m付近に中世の井戸跡等を有する集落跡の小垣内中遺跡を発見したりしている。中世末期の様相については、和田にある重要文化財来迎寺の新本堂建設工事の際、境内から多数の16世紀の土師器皿や瓦片が出土している。

江戸時代の特異な遺跡としては、五門の重要文化財中家住宅およびその周辺遺跡、大久保の重要文化財降井家の降井家屋敷跡がある。平成13年度の中家住宅東側隣接地（中家住宅周辺遺跡）での調査では、3m程度の1箇所のトレンチ内から5,500破片の土師器皿と軒丸瓦片が出土している。

第3節 周知の遺跡

周知の遺跡一覧表

番号	遺跡名	種類	時代	地目	立地	面積	主な成果等
1	降井家書院	建造物	室町～江戸	宅地	平地	4,000m ²	国指定重要文化財
2	中家住宅	建造物	室町～江戸	宅地	平地	4,500m ²	重文・江戸期から明治頃の陶器等出土
3	来迎寺本堂	寺院	鎌倉	倉	丘陵腹	3,100m ²	重文・15～16世紀の陶磁器・土師器検出
4	池ノ谷遺跡	散布地	旧石器	水田	平地	62,300m ²	
5	甲田家住宅	建造物	江戸	宅地	平地	5,000m ²	
6	東円寺跡	寺院跡	平安～江戸	宅地	平地	48,000m ²	瓦・上器多數出土、寺院の形態は不明
7	城ノ下遺跡	城郭跡	室町	宅地	丘陵	61,800m ²	
8	成合寺遺跡	墓地	室町	烟地	丘陵腹	69,000m ²	14世紀代の600基以上の土塁墓群等検出
9	高藏寺城跡	城郭跡	室町	山林	山頂	34,800m ²	上墨・堀切等の遺構を確認する
10	兩山城跡	城郭跡	鎌倉	山林	山頂	45,300m ²	月見ノ亭・馬場・千疋敷の地名が残る
11	五門遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	丘陵	2,300m ²	土師器片等が検出される
12	五門北古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	1,900m ²	現在消滅
13	五門古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	1,500m ²	現在消滅
14	大浦中世墓地	墓地	室町	墓地	平地	18,400m ²	享徳四年（1445）銘の五輪塔地輪等出土
15	久保城跡	城郭跡	鎌倉	水田	平地	86,300m ²	飛鳥期の溝から須恵器・土師器・他瓦器多い
16	山ノ下城跡	城郭跡	鎌倉	倉	宅地	6,800m ²	
17	大谷池遺跡	散布地	古墳～江戸	池	平地	51,400m ²	
18	祭礼御所跡	祭礼跡	室町	山林	丘陵	6,300m ²	五門・紺屋共同墓地
19	正法寺跡	寺院跡	鎌倉	倉	宅地	丘陵	55,000m ²
20	小坂内遺跡	寺院跡	江戸	道路	丘陵	7,000m ²	泥沙門堂跡、現在消滅
21	金剛法寺跡	城郭跡	室町	宅地	平地	5,100m ²	大森神社神宮寺
22	鳥羽殿城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	72,600m ²	
23	葛ノ谷遺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵腹	32,000m ²	
24	花成寺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵	28,000m ²	
25	降井家屋敷跡	屋敷跡	室町～江戸	宅地	平地	12,000m ²	屋敷地を区画する溝や近世の陶磁器等出土
26	大久保A遺跡	散布地	江戸	宅地	平地	8,100m ²	
27	下高田遺跡	条里跡	鎌倉	田	平地	57,000m ²	
28	大久保B遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平地	47,800m ²	弥生末～古墳初期の遺物
29	紺屋遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	平地	22,400m ²	奈良～平安期の河川跡検出
30	白地谷遺跡	散布地	室町～江戸	田	谷	129,600m ²	
31	大久保C遺跡	散布地	室町～江戸	宅地	平地	4,500m ²	
32	千石堀城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	1,000m ²	天正年間（1573～92）の雜賀衆徒の城跡
33	口無池遺跡	散布地	平安～江戸	宅地	平地	11,200m ²	平安末～鎌倉初期の遺構、遺物
34	大久保D遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	9,200m ²	
35	大浦遺跡	散布地	鎌倉～江戸	田	平地	4,900m ²	13～14世紀の瓦器等検出
36	久保A遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	4,400m ²	建物跡、8～14世紀の土器
37	大久保E遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平地	2,900m ²	弥生末～古墳初期の遺物多数
38	久保B遺跡	集落跡	鎌倉～江戸	宅地	平地	5,000m ²	13～14世紀の瓦器等検出
39	中家住宅周辺遺跡	集落跡	室町～江戸	宅地	平地	21,300m ²	近世の陶磁器多数
40	朝代北遺跡	散布地	鎌倉～室町	宅地	平地	60,000m ²	13～14世紀の瓦器等検出
41	七山東遺跡	散布地	奈良～室町	田	平地	80,000m ²	古代須恵器・土師器・瓦器等検出
42	小坂内西遺跡	集落跡	奈良～室町	宅地	平地	3,600m ²	古代須恵器・瓦器・瓦等検出
43	大久保F遺跡	集落跡	弥生～室町	宅地	平地	1,436m ²	石礎・平安頃の建物等検出
44	野田遺跡	集落跡	繩文～江戸	宅地	平地	250,000m ²	繩文石器・古代～近世の集落
45	小坂内中遺跡	集落跡	鎌倉～室町	宅地	平地		

熊取町遺跡分布図



第3章 調査成果の概要

第1節 大久保A遺跡04-1区の調査

大久保A遺跡について

大久保A遺跡はJR熊取駅の周辺に広い範囲をもつ大久保地区のほぼ南端付近に所在する半径約100mに満たない小さな遺跡である。これまでの小規模の確認調査ではほとんど埋蔵文化財は発見されていない。大久保地区には今のところ大久保の名前を有する遺跡が6遺跡周知されており、それぞれの遺跡が発見された順番にアルファベットのA～Fで表記されている。従って大久保A遺跡が大久保の遺跡の中で最初に発見された遺跡である。遺跡の時代は江戸時代のみとされているので、遺跡発見の経緯は、大久保地区の降井家や五門地区の中家といった庄屋の影響下にあった近世集落で使用された陶磁器や瓦などが検出されたものと考えられる。



大久保A遺跡04-1区の調査

調査地 大久保1721-1

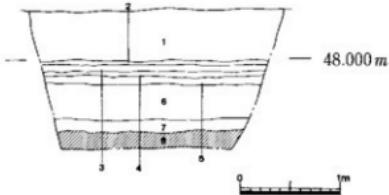
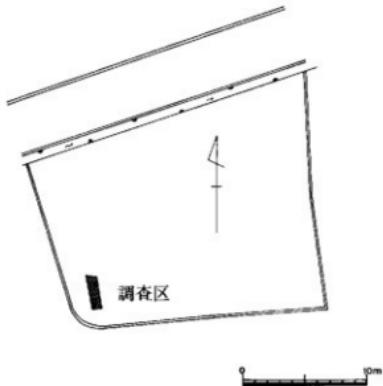
調査期間 平成17年1月17日

位置と環境

調査地点は遺跡の西端にある。平成8年度には申請地の東側の商店街を取り壊して分譲住宅地を造成する工事に伴って確認調査を実施しているが、埋蔵文化財は一切検出されていない。申請地は西南の丘陵上に建設されている町立西小学校へと向かう上り緩傾斜地に存在する。周囲は丘陵面を造成して營まれた段々の水田と畑地が一面に広がっている。この付近ではこれまで中世以前の遺構は確認されていない。

調査内容

調査は機械掘削によって実施した。GL-0.5m程はこの宅地を造成する際に他から運ばれてきた茶褐色のバラス土であり、以下に耕作に関わる土層が3層ほど存在する。これらの層は近世から現代に至るものと考えられ、以下には灰褐色の粘質土をはじめとする地山が見られる。土器や遺構などは一切見られない。



- | | | |
|-----------|------|--------|
| ① パラス | 砂上 | |
| ② N6/ | 灰褐色 | (旧耕作土) |
| ③ 10YR6/8 | 明黄褐色 | (旧耕作土) |
| ④ 10YR7/6 | 明黄褐色 | (旧耕作土) |
| ⑤ 2.5Y7/4 | 浅黄色 | |
| ⑥ 2.5Y6/4 | 黄色 | |
| ⑦ 7.5Y7/3 | 浅黄色 | |
| ⑧ 10YR6/8 | 明黄褐色 | (砂・地山) |

調査結果

現在も周辺は水田が広がっており、かつて耕作地であったと考えられる。ただし水田を営むには元来が地質の良くない荒地であった可能性が高く、近世になって新たに大きく耕作地として開かれていったのではないだろうか。

第2節 大谷池遺跡04-1区の調査

大谷池遺跡について

熊取町で最も規模の大きな遺跡が存在する駅前の大久保地区から大阪外環状線に沿って東の方向へ、かつて比較的大きな規模の寺院があったとされる野田地区へ向かう途中の北側の丘陵上には「大谷池」という面積23km²程度の大きな池が存在している。大谷池は町内の多くの池と同様、近世には農業用溜池として利用された池で、現在でも西側に急峻な堤が残っている。池の南側にも西側と同様の堤が築かれていたものと考えられ、大谷池は当初は横に長い長方形のような形をしていた可能性がある。現在は北側から池に向かって水荘園の住宅地が開発され、南側には桜が丘の住宅地が造成されている。かつて1970年代後半から1980年代にかけて実施された分布調査の際に、池岸で須恵器の破片が採取されたといわれるなど、須恵器を生産した古窯跡が発見される可能性を指摘する遺跡である。しかしながら近年の個人住宅の建築に伴って実施した多くの確認調査においては、古墳時代相当の埋蔵文化財は一切出土したことがなく、池の築堤に伴うと考えられる層から近世陶磁器片が少量検出されただけである。



大谷池遺跡04-1区の調査

調査地 桜が丘2丁目24-4、1030-2、1030-3

調査期間 平成17年3月22日

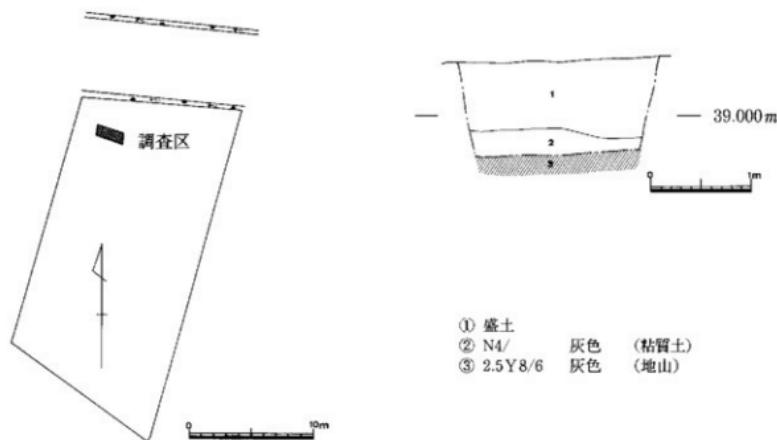
位置と環境

調査地点は遺跡の南西端、大谷池の南岸に位置する。申請地は大谷池に南側から張り出した半島状の場所に當まれている桜が丘の住宅地の一角に所在し、この付近が大谷池の池岸に大幅な盛土を行って造成された場所であると推測される。

調査内容

機械掘削による調査を実施した。GL下-1.0m程に黄褐色粘質土が検出された。またこのGL下-1.0mの検出面には、黄褐色粘質土と灰色粘質土の二つの土層の明瞭な境界が検

出された。北半分側が灰色粘質土で南半分が黄褐色粘質土であることから、北側に向かって落ちていく状況が推測できる。或いは調査区を設定した場所の下に、かつての大谷池の堤防の北斜面部分が存在しているのかもしれない。個人住宅の建設であることから、それ以下を深く掘削しなかったために、黄褐色粘質土が完全な地山であるか等詳細については確認できなかった。また灰色粘質土内から写真の近世陶磁器の破片1片を検出した。



調査結果

調査区の床面に検出した二つの層の境界からは、既に埋め立てられてしまった大谷池の旧堤防が推測される。これと同じような調査結果は、平成12年度の大谷池遺跡00-1区や00-2区の調査で得られている。今回の04-1区と過去の2件の調査は約200m離れているものの、いずれも大谷池の南岸の同じ緯度付近であることから、連続する大谷池南岸の旧堤防、丘陵状の自然地形の一部と推測される。懸案でもある須恵器の古窯跡については、今回の調査地点においても手がかりを得ることはできなかった。なお調査掘削中に発見した陶磁器破片については、江戸時代を下るものと思われる。

第3節 野田遺跡04-3区の調査

野田遺跡について

野田遺跡は熊取町役場周辺一帯の約260,000m²にも及ぶ集落遺跡である。この範囲はこれまで遺跡名「東円寺跡」としていたが、平成15年11月にこの遺跡の南西端に存在する旧中林綿布工場跡地における公園造成工事に伴って試掘調査を実施した際、新たに奈良期の遺構・遺物が発見された。このことから遺跡の範囲内では奈良期の集落にかかわる埋蔵文化財が確認される例も多く、平安末期に創建されたとされる東円寺跡の寺院遺跡の性格からの遊離が顕著になった。また東円寺（東耀寺）と呼ばれる平安末以降の寺院に伴う特殊な軒丸瓦などの埋蔵文化財は、これまでの調査結果などから熊取町役場前の約45,000m²の地域に限定できると考えられるところから、平成15年11月新しく「野田遺跡」の名称をもつて旧「東円寺跡」を改称し集落遺跡とし、別にその中心地域に寺院遺跡の「東円寺跡」を抽出したものである。

野田遺跡の範囲内では町立中央小学校で縄文時代早期と推定される尖頭器が出土した他、現代の野田集落内の住宅調査では奈良期の掘立柱建物群や須恵器などを検出し、野田遺跡の集落が奈良時代から開かれていたことがわかっている。また調査の成果から中世初期頃に集落が最も繁栄したことがわかっている。集落は室町時代の中期頃より衰微したこととも窺え、多くが農地に変わったものと考えられる。

東円寺（東耀寺）は現在跡形もなくなってしまっている。16世紀に著述されたとされる「葛城峯中記」には「野田山…」の記述が見られる。寺院は平安時代末頃に創建され、中世～近世を通じて存続したものの明治維新の廃仏毀釈で完全に法灯が絶えたものとされている。

また江戸時代に著述された「先代考拠略」によれば、東円寺はかつて「東耀寺（トウヨウジ）」と呼称されていたとされる。中世の東耀寺は豊臣秀吉の来襲で完全に焼亡したとされるが、江戸時代に入って再建され「東円寺（トウエンジ）」と呼称されるようになったという。

過去の度重なる発掘調査で出土した完形品に近い複弁蓮華文軒丸瓦や均等唐草文軒平瓦は熊取町指定文化財に指定されている。



野田遺跡04-3 区の調査

調査地 紺屋1丁目265-1、265-2

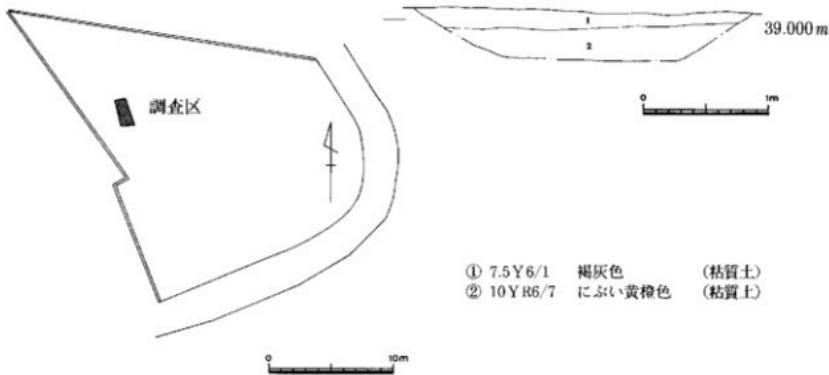
調査期間 平成17年2月17日

位置と環境

調査地点は野田遺跡西南端に位置し、平成17年度に開館したばかりの熊取交流センター（煉瓦館）からは僅かに300mほどの距離にあり、住吉川の北岸に接して位置している。申請地の東側でこれまでに数度個人住宅に伴う確認調査を実施した経緯があるが、埋蔵文化財は検出されていない。また申請地から西に100mほどの距離にある熊取交流センター（煉瓦館）を建設するに先立って平成15年度に実施した野田遺跡03-9区では、奈良時代の溝と須恵器などの遺物が検出されているので、付近一帯に古代からの遺跡が存在している可能性が残されている。

調査内容

重機で地表下約0.6mまで機械掘削して検出したのは、この宅地を造成した際の整地土（搅乱）①とそれ以下のにぶい黄橙色砂礫②である。②はさらにかなり下位まで存在すると考えられる。



調査結果

調査によって申請地は過去に住宅地として開発されている様子が窺えた。残念ながら包含層等明らかにそれとわかる層は一切確認できなかった。②層は位置と環境でも記した熊取交流センターの建設時に実施した試掘調査の多くのトレンチに認めた砂礫層と同種のものかもしれない。申請地を含めた地域は住吉川の北岸にあり、主に江戸時代以降、この河川の河岸を堤防状に整備した経緯が考えられ、その際の大幅な造成に関する土層とも考えられる。あるいはもっと下位に旧来の層が存在するのかもしれない。

第4節 野田遺跡05-5区の調査

調査地 熊取町野田3丁目233-3

調査期間 平成17年9月6日

位置と環境

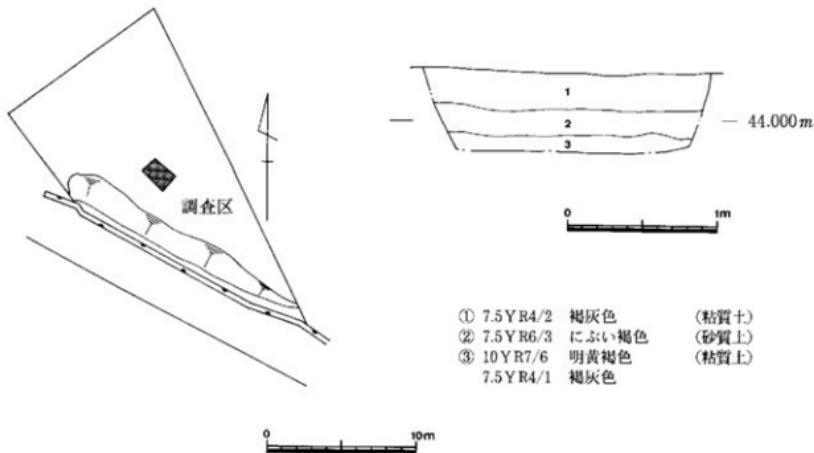
申請地は野田遺跡の北東部、大阪外環状線のすぐ北側に位置している。大阪外環状線を挟んで南側には熊取町役場や消防署、公民館といった官公庁が立ち並んでいる。申請地の北側には大原池という溜池がある。大阪外環状線は築かれる以前は周囲より一段下がった谷になっていたので、申請地は大原池から谷へと続く下り傾斜面に所在していることになる。

また近辺は最近まで比較的狭小な面積を有する水田や畠地が営まれていた。

周辺ではこれまで数度確認調査を実施している。大阪外環状線敷設の際の大坂府教育委員会による本調査では、この広い谷を埋め立てた際の所産と考えられる中世土器を多く含んだ厚い包含層を検出している。平成5年度の民間の工事に伴う確認調査では、この谷の北岸斜面に営まれた埋葬に関連すると考えられる土壌を2基検出している。あるいは南側一体に存在した寺院（旧東円寺）に拘わる遺構かとも考えられるが、詳細を考察し得る出土遺物は検出していない。以上のことからも申請地付近にも中世以前の遺構が存在する可能性があった。

調査内容

調査は調査区を設定して機械掘削によって実施した。-0.7mほど掘削した深さにおいて、およそ3種類の土層を検出したが、いずれも埋蔵文化財にかかる種類のものではなく、近代以降の宅地の造成に付随した土層であると考えられる。



調査結果

調査では地山面を検出できなかったが宅地化に伴う大幅な盛土を検出したので、申請地は大原池が所在する丘陵から外環状線が設置された谷状の地形へと繋がる傾斜地に所在するため、過去のある時期に旧来の地形に改良を加え、耕地化或いは宅地化した経緯があるものと考えられる。残念ながら平成5年度に付近で行った調査成果に繋がるような埋蔵文化財は検出できなかった。

第5節 大久保D遺跡05-1区の調査

大久保D遺跡について

大久保D遺跡はJR熊取駅前の東側一帯に範囲を有する大久保B遺跡と大阪外環状線を挟んで北側の約9,000m²の埋蔵文化財包蔵地であり、鎌倉～江戸時代の散布地として周知されている。この遺跡は町内では比較的広大な面積を有しているにも拘わらず、これまでにこの遺跡内で調査を行った例が少なく、僅かに昭和63年度に民間の共同住宅の建設に伴って大久保D遺跡88-1区として本調査をした例がある。この時は自然流路と呼ばれる断面逆台形の蛇行する細い溝状の遺構を検出し、石鎚などの石器を数点検出したことが報告されているが、町全域に検出される中世の遺物に関しては分布密度の低い地域であると考えられる。



大久保D遺跡05-1区の調査

調査地 大久保北3丁目318-5

調査期間 平成17年9月22日

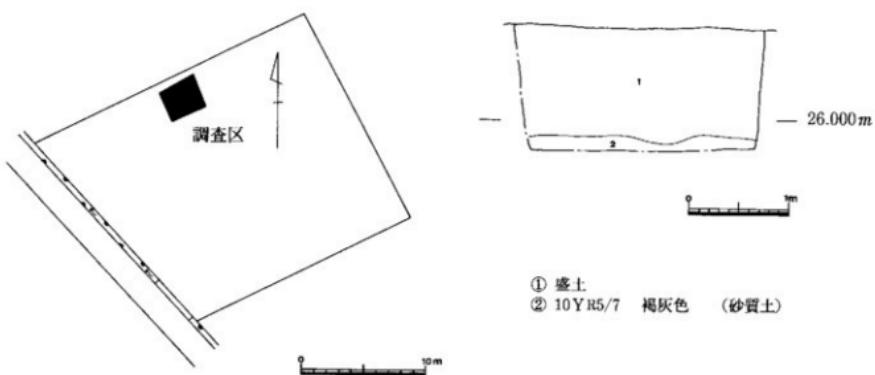
位置と環境

申請地は遺跡の南端の大阪外環状線に面した個人住宅地である。現在この周辺は飲食店や事務所などが立ち並ぶ区域になっているが、過去の状況を撮影した航空写真や周囲の状況からすると、数十年前までは耕作地が広がる地域であったと考えられる。また開発されずに残っている田畠が現在の道路や街路よりも1mほど低い高さに営まれていることが確認できることから、この地域は今よりも相当低い場所で耕作が行われていたことが推定される。これまでの発掘調査の成果から、熊取町内では中世の埋蔵文化財が出土する中世の集落があった場所は、そのまま近世を通して現在に至るまで人々と集落が存在する状況が明瞭に窺われることから、大久保D遺跡が広がる、JR熊取駅の北側の地域には中世の頃に集落が存在していた可能性は低いとも考えられる。

調査内容

調査区を設定して機械掘削による調査を実施した。GLより-1.0mまで近現代の造成盛

土が存在する。以下には中世の可能性がある層が存在するが、工事による破壊が及ばない範囲であるため掘削を施さなかった。



調査結果

調査前の予想通りの結果を得た。造成の盛土が1mほど存在し、以下に中世以前の灰色粘質土が厚く存在している。この灰色土層は粘り気のある粘質土で、水分を多く含んでいることから近年までに及ぶ水田が営まれていたことが考えられる。調査掘削の最低面以下であったためにこの粘質土中に埋蔵文化財が含まれているかは確認していない。また壁面の観察から中世の集落跡などの遺構が存在する可能性は低いものという所見をもった。

第4章　まとめ

大久保A遺跡

大久保A遺跡04-1区の調査では遺構や遺物といった埋蔵文化財は検出しなかった。申請地では最も古い層として近世の耕作土が見られ、この付近が比較的新らしい時期に水田として開発されたことが予想される。このことは周辺における過去の調査結果とも一致しており、今回の申請地を含む雨山側の西岸流域がかねてより耕作に不向きな荒地だったことが考えられる。熊取町では中世の厚い包含層や古代の層を残す古くから開かれた地域と、この付近のように厚い自然粘土層の上に近世以降の耕作土を残す比較的新しい地域とに分かれる傾向があり、申請地を含む雨山川の西岸流域や、町東北部の「白地谷」と呼ばれる見出川東岸流域などの大部分で近世以降新しく開発されていった状況が観察できる。埋蔵文化財発掘調査が中世以前の遺構や遺物を対象として実施され、その調査成果を上げることのみが調査の目的や意義とされている傾向が強いが、このように近世以降に土地が開かれていた地域特有の経緯を発掘調査で裏付けることもまた主要な成果といえるだろう。

大谷池遺跡

大谷池遺跡04-1区の調査では残念ながら目立った成果は見られなかった。調査区の検出壁面の観察においては、現在桜が丘と呼ばれている住宅街を造成した際の大幅な盛土が厚く存在していることがわかった。以下には江戸期に造成された盛土（おそらく堤防等の盛土）が存在していることも確認できたが、個人住宅の建築等ではそのレベルまで掘削が及ばないものと考えられる。

野田遺跡

野田遺跡04-3区の調査では埋蔵文化財は一切検出できなかった。本編でも触れたとおり、熊取交流センター（煉瓦館）の建設工事に伴う野田遺跡02-9区の調査では奈良時代頃の溝状構造等を検出したり、周辺での多くの調査で検出される中世包含層の存在から類推されている中世の集落等の遺構が存在することが考えられているが、今回の調査ではそれらを裏付けるような資料は得られなかった。

05-5区は現在の野田の集落からは北側に離れた地点に所在するため、元来中世の集落等が存在した可能性が比較的低い地点で、古代以前の遺構や旧地形が検出される可能性の方が高い地域であるが、今回の調査では残念ながら遺構・遺物とともに埋蔵文化財は一切検出できずに、宅地の造成に関わる盛土を検出したのにとどまった。

大久保D遺跡

申請地はかつて水田を営んでいた場所を転用して住宅を建築した形跡が窺われ、大幅な盛土を検出した。大久保D遺跡は中世の包含層や、それ以下に古墳時代初頭ぐらいに遡る遺構が存在するものと考えられている遺跡であるが、そういった埋蔵文化財を確認するには、過去に宅地として開発されて現在に至る場所の現況面より相当深く掘削しなければならないだろう。



大久保A遺跡04-1区 調査区



大久保A遺跡04-1区 調査区壁面

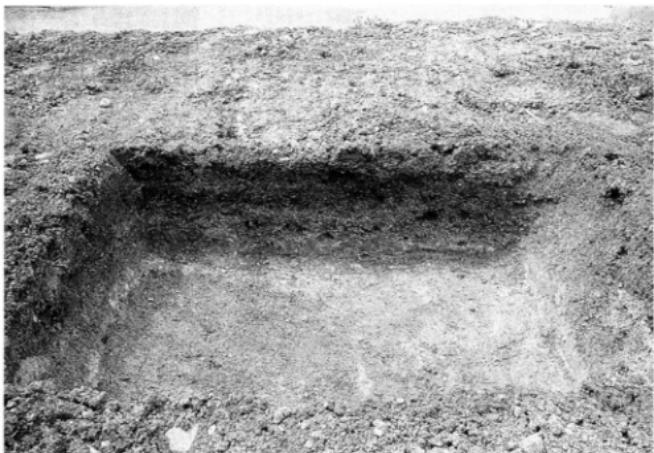
写真図版二



野田遺跡04-3区 調査区



野田遺跡04-3区 調査区壁面



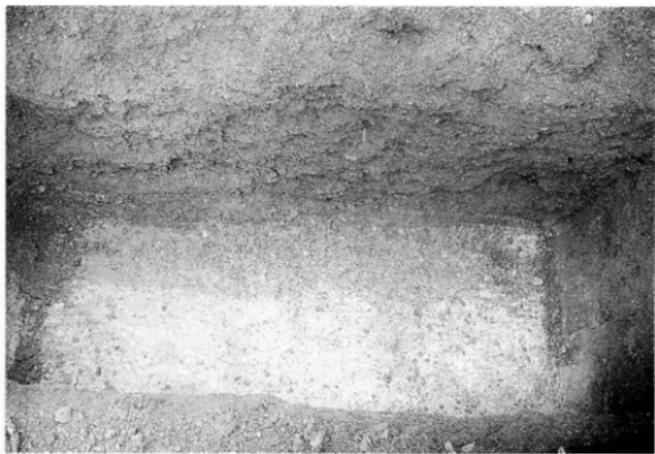
野田遺跡05-5 区 調査区



野田遺跡05-5 区 調査区壁面



大谷池遺跡04-1 区 調査区



大谷池遺跡04-1 区 調査区壁面



大久保D遺跡05-1区 調査区



大久保D遺跡05-1区 調査区壁面

報告書抄録

ふりがな 書名 卷次 シリーズ名 シリーズ番号 編著者名 編集機関 所在地 発行年月日	くまとりちょういせきぐんはっくつちょうさがいようほうこくしょ 熊取町遺跡郡発掘調査概要報告書 XX 熊取町埋蔵文化財調査報告 第47集 前川淳 熊取町教育委員会 〒590-0495 大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号 西暦2006年3月						
所取遺跡	所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 度	東経 度	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
大久保A遺跡 04-1区	大阪府泉南郡 熊取町大久保	27361 26	34° 23' 36"	135° 20' 53"	20050117 20050117	3.0	個人専用 住宅建設
野田遺跡 04-3区	大阪府泉南郡 熊取町糸屋	27361 44	34° 23' 51"	135° 21' 14"	20050217 20050217	3.0	個人専用 住宅建設
野田遺跡 05-5区	大阪府泉南郡 熊取町野田	27361 44	34° 23' 56"	135° 21' 33"	20050906 20050906	3.0	個人専用 住宅建設
大谷池遺跡 04-1区	大阪府泉南郡 熊取町桜が丘	27361 17	34° 24' 10"	135° 21' 02"	20050322 20050322	2.0	個人専用 住宅建設
大久保D遺跡 05-1区	大阪府泉南郡 熊取町大久保	27361 34	34° 23' 11"	135° 20' 50"	20050922 20050922	5.0	個人専用 住宅建設
所取遺跡	種別	遺跡の主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
大久保A遺跡04-1区	散布地	江戸時代	なし	なし			
野田遺跡04-3区	集落跡	縄文～江戸時代	なし	なし			
野田遺跡05-5区	集落跡	縄文～江戸時代	なし	なし			
大谷池遺跡04-1区	散布地	古墳～江戸時代	なし	なし			層：江戸時代
大久保D遺跡05-1区	散布地	鎌倉～江戸時代	なし	なし			層：鎌倉～室町時代

熊取町埋蔵文化財調査報告 第47集
熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XX

発行日 平成18年3月
発行・編集 熊取町教育委員会
大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号
印刷 伊山村印刷所
大阪府貝塚市近木1483番8号